

ひょうたんいけ

桜台小 学校だより
令和2年7月16日
第12号



ひょうたんいけに生えている「がま（蒲）」に「がまの穂」が付きました。花が終わった後にできるそうです。やがて、これが秋になるとほぐれて風に乗って運ばれ、新たな場所に根付くのだそうです。「がまの穂」が、フランクフルトに見えるのは私だけでしょうか。足元には、また真っ白な蓮の花が咲き始めています。そのコントラストがきれいです。

12歳のハローワーク 「就きたい仕事」

この4月から、「自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなぐ」ことを目的として、『キャリア・パスポート』を導入し、就学前から義務教育期間にその冊子を引き継いでいくことになりました。まずは、6年生から取り組みますが、次年度以降すべての学年で進めていきます。

『キャリア・パスポート』には、長期的な視点で「なりたい自分」を書きます。中期的な視点で「教科学習」「教科外活動」「学校外の活動」の3つの目標を立て、達成するための見通しを考え、記録していきます。本校6年生の教室前に、「12歳のハローワーク」の掲示がありました。



「水族館の飼育員」「メイクアップアーティスト」「理学療法士」「医師」「食品会社」「気象予報士」「動物園の飼育員」「歌手」「パティシエ」

「ネイリスト」「CMプランナー」「陸上選手」

等々「将来就いてみたい仕事」について、詳しく調べていました。「(どんな)仕事」「(その仕事の)やりがい」「(必要な)道具や荷物」「(その仕事に)就くために必要なこと」「(調べてみた)感想」などで紙面が構成されていました。仕事に就くまでには、まだ何年かあります。その間、いくつも就きたい仕事は変わっていくと思います。保護者の皆様もご自身の経験を語ってあげてください。

道徳の授業を参観しました



6月から7月にかけて、校長が全クラスでの道徳の授業を参観しました。ご存じのとおり、今年度から道徳が教科となり「道徳科」となりました。

道徳科は日常における道徳的実践力を育てることが目的の教科です。漢字や計算のように一つの答えがある


とは限りません。大切なことは、様々な考え方や見方があることを知ったうえで、「自分ならどうするか」、「どう言うか」を常に自分の生活と照らし合わせて考えることだと思います。

かぼちゃが他の野菜の迷惑を顧みず、つるを伸ばし放題にしていることについて考えた学級、しっぽのないサルを仲間に入れようとするサルたちのことを考えた学級、新型コロナウイルス感染症からくる差別や偏見について考えた学級等々ありました。道徳科は、授業だけではなくすべての学習活動を通して学んでいくものとなっています。この時間で学んだことは、今後の自分の生活の中に生きて働く力となることを期待して、子どもたちを見守ります。

毎日の生活の中でできること

新型コロナウイルス感染症対策で、がまんの多い生活の中ですが、学校では「あいさつ」「トイレのスリッパをそろえる」「時間を守る」「廊下の右側を歩く」など、当たり前のようにできることを大切にしながら指導しています。

大変なときこそ、誰もが安心して安全に生活できるために、一人一人ができることを行ってほしいと思います。

(文責 矢田 )